

## 1 概要

目的	「公共を皆で担う」という理念のもと、まちづくりの主役である市民の参画と協働の取組を拡大するとともに、「地域力アップ」に様々な視点から取り組み、地域の力を活かしたまちづくりを進める。			
関係部署	市民協働課 市長公室	施設整備課	企画課	情報政策課
重点戦略に位置付ける基本目標(まちづくり宣言)	基本目標(まちづくり宣言)			
	1. 市民活動日本一を目指したまちづくり(重点施策)			
	2. 市民みんなで考え、つくる、わかりやすいまちづくり			
	3. 地域の力を活かした、地域が輝くまちづくり			

## 2 平成26年度における主な取組と課題

主な取組	<p><b>○まちづくりバンク制度の構築</b> 市民活動の活性化に向けて、まちづくりポイント制度に加え、市民活動団体と協力者をつなぐ制度である「龍ヶ崎まちづくりつなぐネット」を構築し、平成27年度からの運用開始に向け要綱を制定した。</p> <p><b>○自治基本条例の制定</b> 市民との意見交換等の重要性を踏まえ、市民参加による議論とプロセスを重視した条例づくりを進め、まちづくり基本条例を制定した。今後は、平成27年9月の施行に向けた周知と普及啓発に努めていく。</p> <p><b>○中核的な地域コミュニティの形成</b> 既に設立した7地区に加え、新たに大宮地区において中核的な地域コミュニティを設立するとともに、設立準備会未設置の地域において意見交換会を実施するなど、合意形成に向けた協議を進めている。</p> <p><b>○地域コミュニティ活動事例研修会の実施</b> 地域コミュニティの活動促進を図るため、これまでに設立した8地区の地域コミュニティ関係者及び設立に向けた準備会関係者が一堂に会して、活動事例の紹介や意見交換等の研修会を実施した。</p> <p><b>○広聴機能の充実</b> 市民と市長が気軽に意見交換を行える場として新たに「かたらい広場」の運用を開始し、「市長との意見交換会」や市内立地企業との懇談会と合わせて、市民の市政運営への参画の機会を拡大を図った。</p>
主な課題	<p><b>○協働事業提案制度</b> 応募件数が低調であるため、他自治体の状況調査を行ったうえで改善策などを検討し作成した「協働事業提案制度に関する報告書」を活用し、積極的活用の推進に努める必要がある。</p> <p><b>○公共施設里親制度の周知・啓発活動</b> 新たな里親登録団体はあるものの辞退団体もあることから、団体数の拡充が進まない状況であり、様々なかたちでボランティア活動に対する意識啓発と制度周知に努める必要がある。</p>

## 3 平成26年度の主要事業の進捗に関する総括

総括	A 順調	市民活動日本一の実現に向けて、多様な施策・事業を展開しており、重点戦略を構成する主要事業のうち1事業を除き「順調」若しくは「概ね順調」と評価している。 特に市民の意識啓発に向けた「まちづくり基本条例」の制定や市民活動団体の活動促進のためのまちづくりバンク制度の構築などのほか、市民のまちづくりへの参加を促進するための取り組みを積極的に進めている。 今後も市民の積極的なまちづくり参加に向けて、地域と連携を図りながら「地域力アップ」を目指し、積極的な事業展開と各種事業の周知に努める必要がある。
	B 概ね順調	
	C 遅れている	
	D 見直しが必要	
行政経営評価委員会の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標に対する実績値の上昇・下降に関する分析を行うなどして、今後の方向性・改善策等の具体内容を検討し、示していく必要がある。これは市民に対する説明責任を果たすことに繋がる。</li> <li>・協働事業提案制度について、提案するまでのハードルの高さが提案件数低調の一因であると考えられる。ハードルを下げる工夫の検討と、制度の周知方法などの見直しが必要である。</li> <li>・中核的な地域コミュニティの活動推進において、地域担当職員は、地域の自主的活動を尊重しつつ、よりよい活動推進のための情報発信・相談窓口の役割を十分果たすことが重要である。</li> </ul>	

【数値目標の達成状況】

宣言	指標	ベース値	目標値	実績値			達成率①	達成率②	評価	
				H24	H25	H26				
数値目標	1	まちづくり宣言1 市民活動やボランティア活動に参加したことがある市民の割合 (%)	-	80.0	-	-	75.2	94.0%	-	○
		まちづくり宣言1 市民活動への支援や参加できる機会に満足している市民の割合 (%)	19.9	29.9	-	-	25.2	84.3%	53.0%	△
		まちづくり宣言1 市民提案型協働事業への提案件数 (件)	3	6	4	2	1	66.7%	33.3%	△
		まちづくり宣言1 行政提案型協働事業への提案件数 (件)	2	5	0	1	0	20.0%	-33.3%	×
		まちづくり宣言1 市民活動センター登録団体数 (団体)	50	60	72	92	106	176.7%	560.0%	◎
		まちづくり宣言1 公共施設里親制度登録団体数 (団体)	68	82	75	74	75	91.5%	50.0%	△
		まちづくり宣言1 市民活動センター延べ利用者数 (人)	5,475	7,118	16,276	17,966	19,075	268.0%	827.8%	◎
	2	まちづくり宣言2 まちづくりへ気軽に参加できる機会に満足している市民の割合 (%)	20.0	25.0	-	-	24.7	98.8%	94.0%	○
		まちづくり宣言2 市役所から発信される情報のうち、必要とする情報は得られていると感じている市民の割合 (%)	72.1	77.1	-	-	71.9	93.3%	-4.0%	×
		まちづくり宣言2 行政情報メール配信登録アドレス数 (件)	-	10,000	5,053	6,408	7,945	79.5%	-	△
		まちづくり宣言2 市公式ホームページの年間アクセス件数 (件)	1,141,543	1,484,000	1,478,428	1,330,180	1,286,112	99.6%	98.4%	○
		まちづくり宣言2 市民と市がお互いの信頼のもと、連携・協力したまちづくりが進められていると感じている市民の割合 (%)	27.3	37.3	-	-	26.8	71.8%	-5.0%	×
		まちづくり宣言2 市民アンケート等の回答率 (%)	41.6	50.0	-	-	44.8	89.6%	38.1%	△
	3	まちづくり宣言3 地域の人々がふれあい、交流できる機会・内容に満足している市民の割合 (%)	23.4	28.4	-	-	27.9	98.2%	90.0%	○
まちづくり宣言3 地域での助け合いやボランティア活動に満足している市民の割合 (%)		25.6	30.6	-	-	29.5	96.4%	78.0%	○	
まちづくり宣言3 中核的な地域コミュニティ設立地区数		0	13	0	7	8	61.5%	61.5%	○	
まちづくり宣言3 (再掲) 市民活動への支援や参加できる機会に満足している市民の割合 (%)		19.9	29.9	-	-	25.2	84.3%	53.0%	△	
まちづくり宣言3 (再掲) 市民と市がお互いの信頼のもと、連携・協力したまちづくりが進められていると感じている市民の割合 (%)		27.3	37.3	-	-	26.8	71.8%	-5.0%	×	

達成率①：実績値と目標値により、達成率を算出

達成率②：実績値とベース値、目標値とベース値のそれぞれの差により達成率を算出

評価	評価の内容	まちづくり宣言1	まちづくり宣言2	まちづくり宣言3
◎	達成率②が100%以上 (達成率①が100%以上)	2	0	0
○	達成率②が60%以上 (達成率①が90%以上)	1	2	3
△	達成率②が60%未満 (達成率①が90%未満)	3	2	1
×	達成率②が0%以下	1	2	1

※ベース値設定のある指標は上段で、ない指標は下段の内容で評価を判断する。

【今後の方向性、課題等】

まちづくり基本条例の制定やまちづくりバンク制度の構築、中核的な地域コミュニティの形成(0→8/13地区)等、重点戦略1「協働のまちづくりと地域力のアップ」に掲げる主要事業は、概ね順調に実施しており、「市民活動への支援や参加できる機会」等、まちづくり市民アンケートにおける市民満足度に関する数値目標では、目標値に対して、一定の成果をあげることができている。

しかしながら、その満足度の数値自体はほとんどが低水準(20%程度)にあり、また、まちづくり市民アンケートでの「優先的・重点的に取り組んでほしい項目」において、それら数値目標は、49項目中いずれも下位(39、41、43、49位)となっている等、市民の関心の低さが伺えるところでもある。

少子高齢化の進行や人口減少社会が本格化する中、「公共を皆で担う」という考え方の重要性が一層増していくと考えられることから、今後も市民活動日本一を目指して、「公共を皆で担う」機運の醸成を図るとともに、市民協働の取組拡大に引き続き取り組んでいく必要がある。

<b>重点戦略</b>	<b>2 若者・子育て世代の定住環境の創出</b>
-------------	---------------------------

1 概要

<b>目的</b>	将来的なまちづくりを考えていくうえでも、若者・子育て世代を中心とした人口誘導が求められている。 安心して子育てができる環境の創出に向けて、特色ある施策を展開し、情報発信することで若者・子育て世代を呼び込み、定住人口の増加を図る。			
<b>関係部署</b>	こども課	健康増進課	保険年金課	商工観光課
	施設整備課	教育総務課	生涯学習課	指導課
	学校給食センター	教育センター	企画課	
<b>重点戦略に位置付ける基本目標（まちづくり宣言）</b>	基本目標（まちづくり宣言）			
	4. 子育て環境日本一を目指したまちづくり（重点施策）			
	5. 心豊かな「龍の子」を地域で育てるまちづくり			

2 平成26年度における主な取組と課題

<b>主な取組</b>	<p><b>○保育・預かりサービスの充実</b> 既存幼稚園の幼保連携型認定こども園化を図り2園を開園し、保育環境の充実と待機児童ゼロに向けた取り組みを進めている。また、平成25年度に引き続き、学童保育ルームの増設を実施するなど、利用増加に対応した環境整備を行った。</p> <p><b>○遊びの拠点づくり</b> 子どもたちの心身の発育発達や自主性・創造性を身につける場として龍ヶ岡公園たつのこ山周辺を遊びの拠点と位置づけ、大型遊具を設置した。また、これらを活用して「たつのこプレーパーク」を開催し、安全に楽しく外遊びをする機会を提供した。</p> <p><b>○住み替え支援策の構築</b> 定住促進に向けた子育て世代の住み替え支援策として、龍ヶ崎市内に新たに住宅を取得する若者・子育て世代を対象とした補助金制度を構築した。また、これと連携した住宅ローン商品について金融機関にはたらきかけを行い、1金融機関において連携住宅ローンを開始した。（平成27年度+1、現在2）</p> <p><b>○大学との連携によるボランティア学生派遣事業</b> 流通経済大学と連携した市内小中学校等へのボランティア学生派遣事業を展開し、学生の教育現場での実習の機会を提供するとともに、大学トップレベルにある運動部選手による指導や学生との交流など、子ども達が日常の授業では得られない経験の場の創出を図った。</p> <p><b>○特色ある学校づくり</b> 子ども達が、将来の生き方について夢や希望をもって考える手助けになるよう、5つの小中学校において、スポーツ選手や芸術家、地域の達人等を講師に招き講演会等を実施した。</p>
<b>主な課題</b>	<p><b>○いばらきキッズクラブ協賛店の拡大</b> 協賛店の拡大のため店舗を訪問し協力を呼び掛けているが、新規出店の停滞や、チェーン店では本部等の意向確認を要するケースが多いことなどが影響し、登録店舗数は伸び悩んでいる状況であり、積極的に店舗を訪問するなど、事業者の制度理解を促進し登録数拡大に努める必要がある。</p>

3 平成26年度の主要事業の進捗に関する総括

<b>総括</b>	A 順調	<p>子育て環境日本一の実現に向けて、多様な施策・事業を展開しており、重点戦略を構成する主要事業の5割を「順調」と評価している。また、すべての事業が「順調」「概ね順調」の評価となっている。認定保育園の整備等による保育環境の充実や、保育ルームの増設など、子育てしやすい環境の整備に努めるとともに、龍ヶ岡公園周辺を「遊びの拠点」と位置づけ、子ども達の安全な遊び環境を創出するための取組など、特色ある事業を展開している。また、子育て世代の定住促進に向けて、住み替え支援策を構築。今後も子育て世代の人口誘導が促進されるよう、各種事業を展開するとともに、住み替え支援策の積極的利用の促進を図るなど、定住促進を目指し訴求力のある情報発信に努めていく。</p>
	B 概ね順調	
	C 遅れている	
	D 見直しが必要	
<b>行政経営評価委員会の主な意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て環境日本一」に向けて積極的に事業展開しており、この成果について、ベンチマークや都市行政ネットワークを活用した他自治体との数値比較をするなどし、もっと市民に対しアピールすべきである。</li> <li>・住み替え支援策に関する情報発信について、より効果的な周知・PRの必要がある。</li> <li>・学童保育の受け入れに関する内容が示されていないが、子育て環境の充実において学童保育についても重要な要素である。今後、評価の対象項目とする検討が必要である。</li> </ul>	

【数値目標の達成状況】

宣言	指標	ベース値	目標値	実績値			達成率①	達成率②	評価	
				H24	H25	H26				
数値目標	まちづくり宣言4	子育てしやすいまちと感じている市民の割合（％）【全世代対象】	—	80.0	—	—	41.2	51.5%	—	△
		子どもを産み、育てやすい施設・サービスに満足している市民の割合（％）【21～50才】	29.7	39.7	—	—	37.1	93.5%	74.0%	○
		保育所の待機児童数（人）	0	0	0	0	0	維持	維持	◎
		第3子以降の出生数（人）	103	—	90	99	97	—	—	—
		たつのご育て応援の店登録店舗数（店舗）	16	40	30	41	49	122.5%	137.5%	◎
	まちづくり宣言5	病院・医院の数と夜間・休日等の医療サービス体制に満足している市民の割合（％）	34.4	39.4	—	—	42.2	107.1%	156.0%	◎
		小中学校の教育内容・施設に満足している市民の割合（％）	32.1	37.1	—	—	32.4	87.3%	6.0%	△
		小学校の不登校率（％）	0.40	0.30	0.47	0.62	0.35	116.7%	50.0%	△
		中学校の不登校率（％）	1.94	1.94	2.84	2.81	2.43	79.8%	0.4P増加	×
		学校図書1人当たりの貸し出し冊数【小学校】（冊/年）	43.8	50.0	49.9	50.3	49.2	100.6%	104.8%	◎
学校図書1人当たりの貸し出し冊数【中学校】（冊/年）	25.9	30.0	24.4	24.0	26.0	86.7%	2.4%	△		

達成率①：実績値と目標値により、達成率を算出

達成率②：実績値とベース値、目標値とベース値のそれぞれの差により達成率を算出

評価	評価の内容	まちづくり宣言4	まちづくり宣言5
◎	達成率②が100%以上 (達成率①が100%以上)	3	1
○	達成率②が60%以上 (達成率①が90%以上)	1	0
△	達成率②が60%未満 (達成率①が90%未満)	1	3
×	達成率②が0%以下	0	1

※ベース値設定のある指標は上段で、ない指標は下段の内容で評価を判断する。

【今後の方向性、課題等】

保育・預かりサービスの充実や遊びの拠点づくり、住み替え支援策の構築等、重点戦略2「若者・子育て世代の定住環境の創出」に掲げる主要事業は、順調に実施しており、「子どもを産み、育てやすい施設・サービス」等の市民アンケートでの市民満足度に関する数値目標では、目標値に対して、一定の成果をあげ、中でも「病院・医院の数と夜間・休日等の医療サービス体制」については、目標達成に至っている。また、まちづくり市民アンケートでの「優先的・重点的に取り組んでほしい項目」において、それら数値目標は、49項目中いずれも上位（2, 6, 13位）となっている等、市民の関心・期待の高さが伺えるところでもある。

人口減少社会が本格化する中、将来にわたり本市が存続していくためには、若者・子育て世代の移住・定住促進に向けた取り組みが必要不可欠である。その世代が子育て環境日本一を目指す本市を選んでくれるよう、龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略や龍ヶ崎市教育大綱に登載する施策も取り入れていきながら、そのための環境（結婚、妊娠、出産、育児、教育）づくりに引き続き取り組んでいく必要がある。

<b>重点戦略</b>	<b>3 まちの活性化と知名度アップ</b>
-------------	------------------------

**1 概要**

<b>目的</b>	本市には牛久沼に代表される豊かな自然、広大な農地、まちを支えてきた商工業、多彩な歴史や文化、流通経済大学など多くの地域資源がある。これらの地域資源の活用を基本に、地域活性化と知名度の向上を図る。			
<b>関係部署</b>	資産管理課	シティセールス課	企画課	こども課
	商工観光課	農業政策課	都市計画課	環境対策課
	生涯学習課	スポーツ推進課		
<b>重点戦略に位置付ける基本目標（まちづくり宣言）</b>	基本目標（まちづくり宣言）			
	6. 豊かな自然・地域資源を活かしたまちづくり			
	7. 元気を生み出す活力ある産業が育つまちづくり			
	8. 大学のあるまちのメリットを活かした特色あるまちづくり			
	9. 環境先進都市を目指したまちづくり			

**2 平成26年度における主な取組と課題**

<b>主な取組</b>	<p><b>○フィルムコミッションの推進</b> 県のフィルムコミッションと連携を図るとともに制作会社との連絡を密に行うことで、撮影実績件数の増加に取り組んだ。</p> <p><b>○道の駅の設置</b> 平成27年度における事業化調査及び基本構想策定に向けて、関係機関からの情報収集や先進事例の調査研究を行い、道の駅設置に向けた施設コンセプトを決定した。</p> <p><b>○大学運動部のバックアップ</b> 運動部の試合情報について、ホームページやフェイスブック、ツイッターを活用し、広く周知するとともに市民応援ツアーを実施。また、サッカー部やラグビー部などが好成績を残した際には、懸垂幕の掲出やホームページ等での積極的情報発信を行った。</p> <p><b>○大学と保育所の連携</b> 学生による運動プログラムの実施や学生の保育現場実習の受入れ、学生による保育ルーム児童に対する指導・交流など、大学と保育所の双方にとって有効となる事業の連携を図っている。</p> <p><b>○高効率照明（LED）の普及促進</b> 環境フェアなどで高効率照明（LED）の普及促進のPR活動を行うとともに、市内中学校2校及び防犯灯へLED照明を導入し、公共施設での導入を推進した。</p>
<b>主な課題</b>	<p><b>○グリーンツーリズム・アグリツーリズムの展開</b> 作成した「龍ヶ崎市におけるグリーンツーリズム事業を運営していくためのテキスト」を活用し、市民団体や（公財）まちづくり・文化財団と連携を図りながら、ツアー実施に向け取り組む必要がある。</p> <p><b>○龍ヶ崎ブランドアクションプランの策定</b> 策定審議会・ワーキング会議の期間延長によりアクションプラン策定に至っておらず、スケジュールの見直しを図った。策定審議会・ワーキング等で得られた情報等を活かしたアクションプランの策定を進める必要がある。</p> <p><b>○エコファーマーの拡大</b> 大規模農家への集約が推進されるなども影響し、農家数が減少傾向である中、農業従事者の高齢化等によりエコファーマーを取得する農家を増加させることが難しい状況にある。</p> <p><b>○産学官連携体制の構築</b> 企業と大学、市の連携体制の構築が遅れており、具体的連携事業の内容を検討しながら、事業実施に向けた体制づくりを進める必要がある。</p>

**3 平成26年度の主要事業の進捗に関する総括**

<b>総括</b>	A 順調	多様な地域資源を活用し、当市の活性化と知名度アップを図ることを主眼として、フィルムコミッションの推進や各種龍・流連携事業など活発に事業展開している。また、牛久沼周辺の環境整備や道の駅設置に向けた取り組みが進められ、重点戦略を構成する主要事業の6割超において「順調」若しくは「概ね順調」と評価している。 一方、「遅れている」と評価した事業は約4割あり、グリーンツーリズムやまちの探訪モデルコース設定などの市の魅力を活用・発信する事業や産業活性化による雇用創出等に向けた事業での遅れが多く見受けられるため、これらの事業推進に努める必要がある。
	B 概ね順調	
	C 遅れている	
	D 見直しが必要	
<b>行政経営評価委員会の主な意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する主要事業の推進について、連携が図られていないことで遅れが生じているように見受けられる。担当課・関係機関が十分な連携を図ることが重要である。</li> <li>・ブランド認定制度を有効に活用していくために、認定農産物の生産量の確保に努めていくことが必要である。また、認定に伴う周知・PRが重要である。</li> <li>・子育て環境の充実のために保育分野での龍・流連携の拡充を検討してはどうか。</li> </ul>	

## 【数値目標の達成状況】

宣言	指標	ベース値	目標値	実績値			達成率①	達成率②	評価	
				H24	H25	H26				
数 値 目 標	6 まちづくり宣言6	見どころ・楽しみどころの発掘など観光の振興に満足している市民の割合（％）	11.6	16.6	-	-	13.9	83.7%	46.0%	△
		市の良いところ、好きなところとして「豊かな自然がある」と回答した市民の割合（％）	55.1	60.1	-	-	49.6	82.5%	-110.0%	×
		市の良いところ、好きなところとして「歴史と伝統がある」と回答した市民の割合（％）	15.1	20.1	-	-	11.2	55.7%	-78.0%	×
		フィルムコミッション撮影件数（件）	12	20	15	19	29	145.0%	212.5%	◎
		（再掲）まちづくりに気軽に参加できる機会に満足している市民の割合（％）	20.0	25.0	-	-	24.7	98.8%	94.0%	○
	7 まちづくり宣言7	農業後継者の育成など農業の振興に満足している市民の割合（％）	5.8	10.8	-	-	6.1	56.5%	6.0%	△
		市の良いところ、好きなところとして「買い物などの日常生活が便利である」と回答した市民の割合（％）	30.8	35.8	-	-	37.3	104.2%	130.0%	◎
		エコファーマー取得者数（人）	68	100	70	70	65	70.0%	6.3%	△
		直売所平均出店農家数（件）	15	25	18	25	25	100.0%	100.0%	◎
		特別栽培米作付面積（ha）	71	100	92	95	106	106.0%	120.7%	◎
	8 まちづくり宣言8	市民の龍・流連携の認知度（％）	38.8	43.8	-	-	41.1	93.8%	46.0%	△
		龍・流連携事業や大学のイベント、スポーツ応援、公開講座等に参加したことがある市民の割合（％）	14.0	19.0	-	-	16.0	84.2%	40.0%	△
		学生の龍・流連携の認知度（％）	19.5	25.0	-	25.8	-	103.2%	114.5%	◎
		小中学校ボランティア学生派遣事業に参加した学生数（人）	44	70	95	111	173	247.1%	496.2%	◎
		学生割引サービス協力店数（店）	56	80	61	64	64	80.0%	33.3%	△
9 まちづくり宣言9	ごみ収集サービスや資源リサイクルに満足している市民の割合（％）	74.1	79.1	-	-	79.5	100.5%	108.0%	◎	
	地域をきれいにする活動や公衆衛生に満足している市民の割合（％）	49.2	54.2	-	-	58.0	107.0%	176.0%	◎	
	市民一人が1日に出すごみの量（家庭系ごみ：g）	649	550	682	665	664	82.8%	-15.2%	×	
	ごみの資源化率（％）	16.1	22.0	14.9	14.9	15.8	71.8%	-5.1%	×	
	BDF燃料使用によるCO2削減量（kg）	5,346	8,910	21,490	20,526	18,900	241.2%	453.0%	◎	
	LEDを導入した主な公共施設数（件）	1	6	2	5	8	133.3%	140.0%	◎	

達成率①：実績値と目標値により、達成率を算出

達成率②：実績値とベース値、目標値とベース値のそれぞれの差により達成率を算出

評価	評価の内容	まちづくり宣言6	まちづくり宣言7	まちづくり宣言8	まちづくり宣言9
◎	達成率②が100%以上 (達成率①が100%以上)	1	3	2	4
○	達成率②が60%以上 (達成率①が90%以上)	1	0	0	0
△	達成率②が60%未満 (達成率①が90%未満)	1	2	3	0
×	達成率②が0%以下	2	0	0	2

※ベース値設定のある指標は上段で、ない指標は下段の内容で評価を判断する。

## 【今後の方向性、課題等】

重点施策3に掲げる事業については、全体的に概ね順調に実施しているが、特に市民満足度に関する数値目標では、期待した成果があがっていない状況にあり、また、まちづくり市民アンケートにおける「龍ヶ崎市のもの足りないところ、嫌いなところはありますか」の上位2項目には、前回の調査と同様、「活気とにぎわいが少ない」（2位）、「将来の発展が期待できない」（3位）があげられているところでもある。

まちの活性化と知名度向上については、移住・定住促進に必須要素の1つであることから、今後は、市外からの人口流入増のためのシティプロモーション活動とともに、人口流出抑制に向けた郷土愛、ふるさと意識向上のための取組みを重点的に行っていく他、当市の基幹産業である農業等の産業振興や佐貴駅周辺を中心としたにぎわい創出も推進していく必要がある。

重点戦略	4 安心と住みよさが実感できる生活環境づくり
------	------------------------

1 概要

目的	日常生活を送っていく中での安心確保と住みよい環境づくりは、まちづくりの基本的要素である。市民誰もが安心して快適に暮らすことができる生活環境づくりを推進する。			
関係部署	危機管理室	健康増進課	社会福祉課	高齢福祉課
	市民協働課	商工観光課	交通防犯課	都市計画課
	情報政策課			
重点戦略に位置付ける基本目標(まちづくり宣言)	基本目標(まちづくり宣言)			
	10. 安心安全が実感できるまちづくり			
	11. 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり			
	12. 交通インフラが充実した住みよいまちづくり			

2 平成26年度における主な取組と課題

主な取組	<p><b>○地域における防災体制の強化</b> 自主防災組織の結成・活性化に向けた説明会や助成制度の周知などの取り組みにより、新たに13地区での自主防災組織が結成された。また、地域防災をリードする防災士の全地区配置に向けて、資格取得のための助成を実施し、16名が防災士資格を取得した。</p> <p><b>○防災訓練の充実</b> 龍ヶ崎地域コミュニティ協議会合同訓練では「クラウド型被災者支援システム」を活用した情報収集・伝達訓練や避難者受付訓練を実施した。同合同訓練ではあわせて、市民主体の実働による避難所運営訓練や自主防災組織ごとの集団避難訓練等を実施した。このほか、各地区における防災訓練等の防災活動の充実を図るため、「自主防災組織活動マニュアル作成の手引き」を配布した。</p> <p><b>○高齢者向け市内公共交通定期券の発行</b> 市民ニーズ調査の結果を踏まえ、満70歳以上を対象としたコミュニティバスと関東鉄道路線バスの共通定期券の発行に向けた取り組みを進め、平成27年4月からの運用開始を決定した。</p> <p><b>○災害時の要援護者避難支援</b> 要援護者の避難支援個別計画については、住民自治組織や介護支援専門員等の協力を得ながら、作成希望者の割合を高めることができた。</p>
主な課題	<p><b>○高齢者の居場所づくり</b> 高齢者の居場所づくりを包括した空き家等を活用した地域活動拠点の設置については、関係法令等の課題を整理し、実施方法の再検討が必要である。</p> <p><b>○竜ヶ崎線終了後の深夜バス運行</b> 市民ニーズ調査の結果を踏まえ、深夜バスの実証運行を見送っており、代わりとなる深夜帰宅に対応した交通システムの利便性向上及び公共交通機関の利用促進策の検討が必要である。</p> <p><b>○JR佐貫駅前の機能向上</b> 既に機能向上に向けた課題・解決策等は整理されており、示された東口ロータリーの改善や都市計画道路佐貫3号線に繋がるアクセスの検討など、具体策の検討を進める必要がある。</p>

3 平成26年度の主要事業の進捗に関する総括

総括	<p>A 順調</p> <p>B 概ね順調</p> <p>C 遅れている</p> <p>D 見直しが必要</p>	<p>市民誰もが安心して暮らせるまちを目指した防災・防犯体制の整備や、高齢者や障がい者に配慮した住みよい生活環境の整備を積極的に進めてきており、重点戦略を構成する主要事業の約9割が「順調」若しくは「概ね順調」と評価している。</p> <p>しかし、高齢者の居場所づくり事業のほか、まちづくり宣言12に掲げる交通インフラの充実に関する事業では多くの課題が残されており、引き続き市民ニーズ等を勘案しながら、各施策の推進を図る必要がある。</p>
行政経営評価委員会の主な意見	<p>・公共交通機関の利用者数は、目標値として設定するべきものか疑問である。市が制御できるものでなく、あくまでも成果的なもの。モニタリングした結果からその原因を探り対応策を検討する、ひとつの参考指標と捉えるべきである。</p> <p>・健康志向が高まるなか「住みよいまちづくり」を進める上で、サイクリングロードはあったほうがよい。</p>	

## 【数値目標の達成状況】

宣言	指標	ベース値	目標値	実績値			達成率①	達成率②	評価	
				H24	H25	H26				
数 値 目 標	まちづくり宣言 10	台風や地震など自然災害への対策に満足している市民の割合 (%)	31.6	36.6	—	—	38.2	104.4%	132.0%	◎
		犯罪や非行防止などの治安対策に満足している市民の割合 (%)	25.8	30.8	—	—	29.6	96.1%	76.0%	○
		災害援助協定等の自治体との締結数 (件)	1	3	4	4	4	133.3%	150.0%	◎
	10	自主防災組織結成率 (%)	85.6	100.0	87.3	88.8	96.6	96.6%	76.4%	○
	まちづくり宣言 11	お年寄りが生活しやすい施設・サービスに満足している市民の割合 (%)	18.3	23.3	—	—	22.0	94.4%	74.0%	○
		障がいのある人が生活しやすい施設・サービス等に満足している市民の割合 (%)	11.6	16.6	—	—	13.5	81.3%	38.0%	△
		健康診査などの受けやすさや健康づくりのしやすさに満足している市民の割合 (%)	43.7	48.7	—	—	52.2	107.2%	170.0%	◎
		(再掲) 病院・医院の数と夜間・休日等の医療サービス体制に満足している市民の割合 (%)	34.4	39.4	—	—	42.2	107.1%	156.0%	◎
	まちづくり宣言 12	鉄道やバスなど公共交通機関の利便性に満足している市民の割合 (%)	21.0	26.0	—	—	24.3	93.5%	66.0%	○
		コミュニティバス年間利用者数 (人)	190,331	200,000	185,577	183,115	182,585	92.8%	-49.2%	×
佐貫駅1日当たりの平均乗車数 (人)		14,550	15,300	14,001	13,833	13,377	91.5%	-73.2%	×	
関東鉄道竜ヶ崎線竜ヶ崎駅1日当たり平均乗車数 (人)		1,250	1,320	1,155	1,175	1,183	89.6%	-95.7%	×	
12		交通安全対策に満足している市民の割合 (%)	34.1	39.1	—	—	38.1	97.4%	80.0%	○
(再掲) お年寄りが生活しやすい施設・サービスに満足している市民の割合 (%)		18.3	23.3	—	—	22.0	94.4%	74.0%	○	

達成率①：実績値と目標値により、達成率を算出

達成率②：実績値とベース値、目標値とベース値のそれぞれの差により達成率を算出

評価	評価の内容	まちづくり宣言10	まちづくり宣言11	まちづくり宣言12
◎	達成率②が100%以上 (達成率①が100%以上)	2	2	0
○	達成率②が60%以上 (達成率①が90%以上)	2	1	3
△	達成率②が60%未満 (達成率①が90%未満)	0	1	0
×	達成率②が0%以下	0	0	3

※ベース値設定のある指標は上段で、ない指標は下段の内容で評価を判断する。

## 【今後の方向性、課題等】

地域防災計画や防災関連マニュアルの見直し、高齢者向け市内公共交通定期券の発行等、重点戦略4「安心と住みよさが実感できる生活環境づくり」に掲げる主要事業は、概ね順調に進捗しており、「台風や地震など自然災害への対策」等、まちづくり市民アンケートでの市民満足度に関する数値目標では、目標値に対して、一定の成果をあげている。しかしながら、「鉄道やバスなど公共交通機関の利便性」の満足度については、前回調査よりも3.3ポイント増加がしているものの、依然として満足度は低水準にあり、また、「龍ヶ崎市のもの足りないところ、嫌いなのところは何か」の項目においては、前回の調査と同様、「交通の便が悪い」(1位)があげられているところでもある。

定住促進という観点において、暮らしの安心安全は必要不可欠なものであるため、引き続き防災・防犯対策や高齢化社会に対応した環境整備を行っていくとともに、これまでも当市の大きな課題であった交通施策の充実に積極的に取り組んでいく必要がある。